2022

GD&PC

Design & Planning
Competiton
for Gensai

異常気象
Abnormal weather

パンデミック
Pandemic

減災
デザイン＆プランニング
コンペ 2022

来る大地震
Huge earthquake

gen-sai
減災

避けることのできない災害に対し、
その被害をできるだけ少なくしよう
とする考え方

重点テーマ：

With コロナ、災害多発…
この時代をより良く生きる術

Natural disasters in the time of COVID-19:
Improved techniques to survive

応募期間：2022年 1月17日(月)～2月17日(木)

GENSAI

1 次審査（書類選考）：2月末(予定)
2次（最終）審査（プレゼンテーションを伴う選考）：3月(予定)
成果展示の開催：2022年内(見込み)

■主催：一般社団法人 芸術工学会 特設委員会 II「減災と復興へのデザイン力」 減災デザイン・プロジェクト
■協力：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、ほか（予定）

https://www.gensai-design.com/GDPC/

※過去の受賞作品をご覧いただけます。

GD&PC

減災デザイン＆プランニング コンペ2022

DESIGN & PLANNING COMPETITION for GENSAI

2022 重点テーマ

Withコロナ、災害多発…この時代をより良く生きる術

Natural disasters in the time of COVID-19: Improved techniques to survive

開催要旨

「減災」とは、避けることのできない災害に対し、その被害をできるだけ少なくしようとする考え方。「減災」を推進するための発案・デザインを求める当コンペは、2011 年から始め。今回 11 回目となります。

東日本大震災から 10 年が経ちました。阪神・淡路大震災からは 27 年。この年月、日本国は、災害に強い社会を構築するための知恵や実践を蓄積する時間でもありました。しかし今、異常な気象現象の頻発化などによって、災害は私たちにとって、より身近なものとなってしまった感があります。そしてこの 2 年ほどは、世界が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の蔓延と向き合い、災害と捉えうるこの事態への対応は今後も続くと考えられます。

災害とは「私たちの日常を、突如、非日常に変える」もの。誰もがある日その時を迎える可能性があります。いざその時に、無事であるためには、日常をいかに整えておくべきかという観点で「備え」を進めることが大切です。

また、すべての人の毎日を非日常としてしまったパンデミックですが、逆に、継続するこの状態はもはや日常であるとも捉えられます。すべての人が被災者として生きるような新たな日常は、どうあるべきでしょう。そしてこの最中に次の災害が発生することにも、私たちは向き合っていかなくてはなりません…。

このような時代を生きる私たちは、今、何を学び、日常をどのように整えるべきでしょう。日常の中に「備え」を巧妙に仕掛けることでこそ、平時も、非常時も我が身の無事を維持しうるのではないでしょうか。「デザイン」はこのテーマに向き合い、意義のある成果を生み出すことができるでしょうか。頻発する災害とその対応、コロナ禍で私たち皆が受けた経験に学び、克服し、これからの備えにつなげていくために、デザインの力で貢献していければと願っています。

あなたの、アイディア、創造、探究した成果を求めます。

■主　催：一般社団法人 芸術工学会 特設委員会Ⅱ
「減災と復興へのデザイン力」
減災デザイン・プロジェクト

■協　力：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、ほか

■事務局：減災デザイン・プロジェクト事務局
代表　相良二朗
〒651-2196　神戸市西区学園西町 8-1-1
一般社団法人 芸術工学会特設委員会Ⅱ内

■問合せ：https://www.gensai-design.com/GDPC/
Web 内フォームでお寄せください。
E メール　office@gensai-design.com

GENSAI

コンペ概要

対象（応募資格）

●どなたでも可。プロ・アマを問いません。
●他のコンペ等にエントリーをしていない提案に限ります。
●現状で製品化の有無は問いません。（ただしその有無をエントリー時に明らかにすること）
●グループでの参加も可。
●1 人（1 グループ）につき 3 提案までエントリー可。
●ウェブ閲覧、PC からの受信可能なメールアドレスによる連絡ができること。（携帯メールは不可）

提案の方法（提出仕様）

【1】提案グラフィック（タイトル含む）

A3 用紙大：横 297× 縦 420mm（外周 10mm 内に文字情報は記載しないこと）、縦置き 1 ページに表現した PDF データを、ウェブサイトのフォームからの投稿により提出してください。

【2】テーマレポート

テキストデータ原稿を、ウェブサイトのフォームからの投稿により提出してください（下記の 3 項目につき各上限 300 字、計 900 字程度）。

●これまで実際にあった災害・被害や、いま世界が直面している感染症による社会情勢、気候変動にもよると言われる昨今の気象災害等の脅威、巨大地震発生の想定などから、今回調査し、学んだこと。
●取り組んだテーマ：そのテーマを抽出した理由、解決すべき・取り組むべきと感じた課題について。
●提案内容の説明：提案が機能するシーンを、4W1H「いつ（When）、どこで（Where）、だれが（Who）、なにを（What）、どのように（How）」を具体的に想定した提案の内容と、その発案のオリジナリティ等について。

【3】エントリー（参加登録）

ウェブサイト上のフォームから必須事項を記入し、登録してください。

※用いる言語：日本語または英語。

注意点

●提案グラフィック内には、審査の公平性・個人情報保護の観点から、個人名、所属団体名、連絡先、ロゴマークなど、個人・企業ブランド・所属等を特定・アピールする情報は掲載しないこと。（既存製品等にプリントされたマーク等が画像に映っていること等は、そのレベルに応じ許容します。）
●提出にあたり、仕様などの要件を満たしていない場合は失格となります。
●知的財産権については別項「提案に関する規則・権利等について」を参照ください。

参加費（エントリー料） 無料

審査方法

●第 1 次審査：「提案グラフィック」および「テーマレポート」による書類審査。
●第 2 次審査：上記書類審査に加え、モデル模型等の提示、プレゼンテーションを考慮の上、審査会により選考。（オンラインミーティングを予定）

審査委員会（予定）

齊木 崇人　神戸芸術工科大学学長／芸術工学会 監事
佐藤　優　神戸芸術工科大学副学長
森山 明子　武蔵野美術大学教授／芸術工学会 監事
相良 二朗　芸術工学会 特設委員会Ⅱ 担当
下尾 邦之　倉敷芸術科学大学非常勤講師／デザイナー
荒木 裕子　名古屋大学減災連携研究センター 特任准教授
宮本　匠　兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授
平林 英二　人と防災未来センター／減災デザイン・プロジェクト

応募から審査・公開の流れ

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時措置等により、スケジュール等が変更となる場合があります。最新情報をウェブサイトでご確認ください。

【1】エントリー

WEB サイトからエントリーください。同時に提案データをアップロードし、提出ください。
https://www.gensai-design.com/GDPC/

■エントリー＆データ提出期間：
2022 年 1 月 17 日（月）～ 2 月 17 日（木）

【2】1 次審査

審査委員会が設定する方法により、書類審査を行います。結果は WEB サイトに掲示します。

■日程：2021 年 2 月中（予定）

【3】プレゼンテーション＆2 次（最終）審査

1 次審査通過者による「プレゼンテーション」と 2 次（最終）審査会を行います。

■日程：2021 年 3 月中（予定）

プレゼンの方法については、日程調整と合わせ対象者に連絡します。（公開イベントとして行う場合あり）

【4】表彰

審査委員会よる最終審査の結果、最優秀賞ほか、各賞を選定し、表彰します。

【5】ウェブ掲載・電子書籍化による公開

1 次審査通過以上の提案を取りまとめ、WEB サイトに掲載します。また成果を編集した「電子書籍」の出版を予定します。（提案を公開情報化することをあらかじめご了解の上、エントリーください。）

【6】成果展示（予定）

1 次審査に通過した提案グラフィックおよびテーマレポートを展示する展示会を行います。
・提案者の意向で模型・モデル等の展示ができます。
・模型・モデル等の展示希望数が多い場合、会場の都合、展示数を制限をする場合があります。
・模型・モデル等の展示設営のためにかかる費用・送料・交通費などは提案者の負担とします。

■会期：2022 年中（感染症対策等により変更・中止する場合有り。）

提案に関する規則・権利等について

●応募データは返却しません。
●コンペ事務局では、コンペの告知等のために、提案内容を使用することがあります。
●コンペ事務局では、コンペ終了後の成果につき、ウェブサイト上での公開、電子書籍の編集・発行などで、一般社会への広い認知を促進します。
●知的財産権について：諸権利は応募者にありますので、公開までに権利保持の諸手続きをとることをお奨めします。また既存の製品、提案等につき、意匠、商標等の出願または登録がされている場合はエントリー時にその旨を記してください。なお他者の権利を侵害する怖れがある場合は、賞を取り消すことがあります。
●提案を実際の製品化に進めるため等で、提案者と企業等とのマッチング、コラボレーションにおいて、事務局がこのコーディネートを担う場合があります。
詳しくは、WEB サイトに掲示します。